

報 告

中部支部50年の歩み

50 Years' History of Chubu Branch, The Japanese Geotechnical Society

杉 戸 真 太 (すぎと まさた)

岐阜大学副学長 中部支部50周年記念事業実行委員長

1. はじめに

地盤工学会中部支部は、昭和32年10月18日に日本国有鉄道中部支社の大会議室にて約300名の出席者を得て設立総会を行って以来、50年の歴史を歩んでまいりました。これはひとえにこれまでの学会活動をご支援いただくとともに、とくに支部活動を盛り上げていただきました歴代の役員、幹事のご努力と会員各位のご協力の賜物であったと思います。この誌面をお借りしまして心より御礼申しあげる次第であります。

2. 最近のビッグプロジェクト

中部地域のこの50年を振り返ってみると、数多くのビッグプロジェクトが進められてきました。黒部ダムをはじめとする数多くの巨大ダム、東名、名神に代表される基幹高速道路、東海道新幹線、都市域の自動車専用道、臨海部の広大な埋立地の開発、大規模な河川改修、など枚挙にいとまがありません。とくに、この10年間においては、図-1に示しますように、中部国際空港、愛知万博、第二東名・名神や東海環状、難工事を克服し開通した飛騨トンネルを含む東海北陸道といった高速道路や主要社会基盤施設の整備、さらには、我が国最大の貯水量を誇る徳山ダムの建設といった数々のビッグプロジェクトが進められ、学会としましても直面する種々の地盤工学的問題を解決してまいりました。

3. 中部支部の活発な委員会活動

中部支部では、この地域独自の地盤工学的諸問題を解決するための委員会、広く支部会員の方々に最新の話題を提供するための研究会などの委員会活動を、その時々の社会の要請に応じて積極的に実施してきました。表-1には、現在活動を行っている13の研究委員会、部会を示しました。10年以上にわたって活発に活動している委員会もあります。支部会員にとりまして、このような活発な研究活動の場があり、各委員会、部会からの最新の情報が得られることは、まことに喜ばしいことでございます。

4. 中部支部50周年記念行事の概要

中部支部では創立以来10年ごとに周年記念事業を実施してまいりました。そこでは、実務の第一線の現場で地盤工学技術者として活躍されている方や、最先端の研

究成果を挙げられている方々の基調講演を企画し、また、支部の発展に貢献された方々の表彰など、独自の行事を実施してまいりました。中部支部創立50周年を迎えた平成19年度におきましては、いくつかの記念事業を企画・実施致しました。また、平成19年9月21日には、記念式典を開催することができました。その概要を表-2に示しました。50周年を迎えるこのような事業を実施できたことは、支部会員一同にとって大きな喜びがありました。

5. おわりに

この中部地域では、近い将来必ず来襲するであろう東海・東南海といった海溝型巨大地震への対応が急がれています。また、毎年のように多くの土砂災害が発生する山岳地帯が広く分布し、活動度の高い内陸活断層が我が国で最も多く集中し、さらには濃尾平野南部のように軟弱地盤が広く分布するなど、地盤工学的技術が最も必要とされる地域であり、地盤工学会員の果たす役割はますます大きなものとなってまいりました。これまで以上の会員の皆様のご健闘と地域社会への貢献が期待されていると信じております。

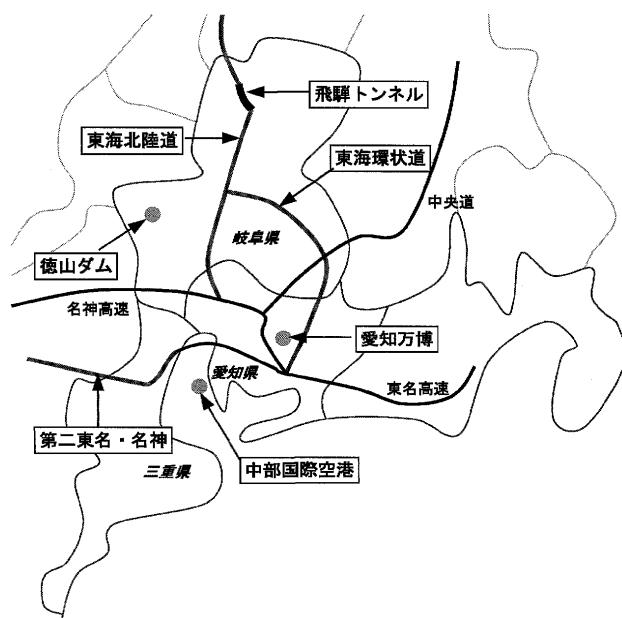


図-1 中部地域における最近10年のビッグプロジェクト

表一 地盤工学会中部支部 研究委員会、部会（平成20年度）

委員会・部会名	委員数	委員長
企画委員会	8	中野 正樹 (名古屋大学)
運営委員会	13	大橋 正 (中部地質調査業協会)
地盤工学に関するセミナー (第1部会)	36	小高 猛司 (名城大学)
濃尾地盤研究委員会 (第2部会)	26	吉村 優治 (岐阜工業高等専門学校)
中部総合地震防災システム研究委員会 (第3部会)	28	能島 暢呂 (岐阜大学)
調査・設計・施工技術報告会 (第4部会)	30	三浦 均也 (豊橋技術科学大学)
中部地盤工学シンポジウム (第5部会)	15	野田 利弘 (名古屋大学)
見学会 (第6部会)	10	吉田 和徳 (名古屋市交通局)
信州地域地盤研究委員会 (第7部会)	13	古本 吉倫 (長野工業高等専門学校)
若手技術者の会 (第8部会)	12	中井 健太郎 (名古屋大学)
「最新名古屋地盤図」改訂委員会	18	大東 憲二 (大同工業大学)
中部支部災害緊急調査団	25	八嶋 厚 (岐阜大学)

表二 地盤工学会中部支部創立50周年式典

日時・場所	平成19年9月21日、ウェルシティ名古屋
来賓祝辞	地盤工学会会長 龍岡文夫 地盤工学会中部支部顧問 川本眺万 国土交通省中部地方整備局企画部長 安田実
中部支部功労賞表彰	中部電力株式会社 水力・火力・原子力の各種電源開発に関連した地盤工学の技術発展に貢献すると共に、特別会員として、長年にわたり支部活動に深く関わり、支部の発展に大いに貢献した。 中部地質調査業協会 地盤工学に關係の深い中部地域の地質調査業者(47社)の代表組織として、中部支部および地盤工学の発展に貢献。また、各種報告会、見学会などの後援・共催などへ、組織的・経済的に協力した。 中日本高速道路株式会社およびトンネル施工業者 9年余をかけた「東海北陸自動車道飛騨トンネル」事業の克服、ならびに、その記録映画を多数制作し、難工事の様子を一般市民へ正確に伝えるとともに、技術者にも施工技術を伝承した。 信州大学 小西純一 長年における中部支部幹事・評議委員、各種研究委員会で活躍された他、信州地域地盤研究委員会委員長として各種行事を企画・運営し、会員の資質向上・会員の連携強化に大いに寄与した。 中部大学 山田公夫 「土木学会中部支部編著・最新名古屋地盤図」の発刊に携わり、また、中部支部副支部長(平成10~12年)、支部長(平成13年)として活躍。さらに、東海地域の液状化予測に関して地盤工学の発展に大いに寄与した。 岐阜大学 八嶋厚 中部支部支部長(平成12年)、支部顧問、企画委員会や各部会委員として支部会員へのサービスと活性化に尽力した。本部においても、学会の運営および発展に貢献。また、中部地域の道路防災ドクターなど、地盤防災の最前線で活躍した。
「最新名古屋地盤図」改訂事業報告	「最新名古屋地盤図」改訂委員会委員長 大東憲二(大同工業大学) 中部支部50周年事業の一つとして行われる「最新名古屋地盤図」の改訂事業に関する事業報告を行った。
記念講演	東海北陸自動車道飛騨トンネル工事 —土被り1000mに於ける不良地山帶と大量湧水帶との戦い— NEXCO清美工事事務所 所長 寺田光太郎

(原稿受理 2009.2.12)